

○計画期間:令和7年4月～令和12年3月(5年)

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 令和7年度終了時点(令和8年3月31日時点)の中心市街地の概況

本市では、令和7年3月に国の認定を受けた高松市中心市街地活性化基本計画について、「これからも選ばれる中心市街地「たかまつ」へ」をコンセプトに、計画に掲載された全56事業が活性化に向けた相乗効果をもたらすよう、官民が連携し、中心市街地の活性化に取り組んでいる。

計画に掲載された全56事業の進捗状況は、1事業が完了、55事業が継続実施中となっている。

令和7年度には、中心市街地の活性化に大きく寄与したイベントや施設の取組が展開された。

まず、3年に1回開催される「瀬戸内国際芸術祭」が実施され、春・夏・秋の3つの会期にわたって合計107日間開催され、この期間中の来場者数は約108万人に達し、前回の2022年と比べて大幅に増加した。この大規模なイベントは、地域への国内外からの来訪を促し、交流人口や宿泊者数の増加に貢献した。

中心市街地の賑わいをさらに加速させたのが、丸亀町商店街G街区市街地再開発事業区域にオープンした「ポケモンセンターカガワ」である。中四国エリアで2店舗目となるこの施設は、2025年10月に開業し、多くの人々が訪れる人気スポットとなり商店街への集客効果をもたらしたことにより中心市街地の活性化に寄与した。

また、中心市街地北部のサンポートエリアでも、賑わいを創出する取り組みが展開された。令和7年2月に開館した「香川県立アリーナ」では、著名アーティストのコンサートや「かがわマラソン」などのスポーツイベントが開催された。さらに、プロジェクションマッピングやクリスマスマーケットなど多彩なイベントが行われ、地域の交流人口を大幅に増加させ、中心市街地への回遊が促進され宿泊者数の増加にもつながった。

こうした賑わいを一過性のものに終わらせないために、さらなる施策が進められている。サンポートエリアと中央商店街をつなぐ移動の利便性を向上させるため、「まちなか直行バス」の社会実験を実施するとともに、地域の企業や行政機関が連携して「エリアマネジメント組織」を設立する検討にも着手している。

今後も引き続き、官民共創により中心市街地活性化の取り組みを進めていく。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

(基準日: 毎年度1月1日)

(1) 居住人口

(中心市街地 区域)	令和6年度 (計画前年度)	令和7年度 (1年目)	令和8年度 (2年目)	令和9年度 (3年目)	令和10年度 (4年目)	令和11年度 (5年目)
人口	20,504人	20,483人	—	—	—	—
人口増減数	222人	▲21人	—	—	—	—
自然増減数	▲240人	▲214人	—	—	—	—
社会増減数	462人	193人	—	—	—	—
転入者数	1,166人	1,199人	—	—	—	—

(2) 地価

(基準日: 毎年1月1日)

(単位: 円/㎡)

位置	令和6年 (計画前年度)	令和7年 (1年目)	令和8年 (2年目)	令和9年 (3年目)	令和10年 (4年目)	令和11年 (5年目)
磨屋町2番6外	454,000	469,000	—	—	—	—
築地町16番15	123,000	125,000	—	—	—	—
西の丸町10番6	254,000	260,000	—	—	—	—
御坊町10番16	129,000	130,000	—	—	—	—
南新町4番3	256,000	258,000	—	—	—	—
錦町一丁目210番	196,000	199,000	—	—	—	—
天神前7番4	159,000	161,000	—	—	—	—
藤塚町二丁目4番14	126,000	127,000	—	—	—	—
丸の内7番20	161,000	163,000	—	—	—	—
瓦町二丁目12番2	208,000	210,000	—	—	—	—
錦町一丁目269番1	162,000	166,000	—	—	—	—

2. 令和7年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

第4期基本計画の認定から概ね1年が経過した令和7年度末までの実績として、全56事業のうち1事業が完了、48事業が継続実施中、7事業が未完了となっており、引き続き事業の着実な進捗を図られたい。

目標指標の達成状況からみると、「中心市街地内の宿泊者数」については、区域内に立地する宿泊施設の年間宿泊者数が97万人に達し、当初の目標値を上回る結果となった。これは瀬戸内国際芸術祭の開催や香川県立アリーナの開館などの追い風があったためと考えられる。今後も県立アリーナや周辺施設での大規模イベントの開催により広域からの来訪者の増加が見込まれ、宿泊者数の増加が期待される。

また、「高松中央商店街の歩行者等通行量」については、「ポケモンセンターカガワ」のオープン等による来街者数そのものの増加があったものの、数値上では目標値の達成には至っていない。本件については、令和7年度の計測カメラ更新前の機器が実際の数値よりも多くカウントしていたため、更新後の数値が相対的に低くなっている。

「中心市街地の社会動態」については、目標達成には至らなかったが、市全体の人口が減少傾向にある中で、マンションの建設等が要因となり増加傾向である。

「データ連携基盤を活用した事業数」については、基準値を上回ることができ、概ね順調に進んでいる。

今後は、インバウンドの増加や経済活動の活発化が期待されていることを踏まえ、官民が連携し、基本計画に位置付けられている中核事業の積極的な推進を行うことで、早期に目標指標が達成され、更なる中心市街地の活性化が図られるよう取り組んでもらいたい。

Ⅱ. 目標ごとのフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況 ※ 1	目標達成に関する見通し ※ 2	
						前回の 見通し	今回の 見通し
みんなが訪れたい なる中心市街地	中心市街地 内の宿泊者 数	880 千人 (R 5)	961 千人 (R11)	970 千人 (R7)	A	—	A
みんなが 巡って みたく なる 中心市 街地	歩行者等通 行量 (全日)	122, 935 人 (R 5)	125, 739 人 (R11)	113, 403 人 (R7)	C	—	C
みんなが 住みたい なる中心 市街地	中心市街地 の社会動態	960 人 (R 1. 4 ~ R6. 3)	1, 004 人 (R7. 4 ~ R12. 3)	141 人 (R7)	C	—	A
これから も持続的 に成長す る中心市 街地	データ連携 基盤を活用 した事業数	5 件 (R5)	10 件 (R11)	6 件 (R7)	B	—	A

<基準値からの改善状況>

A : 目標達成、B : 基準値より改善、C : 基準値に及ばない

※上記について、関連する事業等の進捗状況が順調ではない場合は、英字を小文字にして下線を引く。

(a、b、c)

<目標達成に関する見通し>

A 目標達成が見込まれる(関連する事業等の進捗状況が順調)

a 目標達成が見込まれる(関連する事業等の進捗状況が順調でない)

B 目標達成が見込まれないが基準値を上回ることが見込まれる(関連する事業等の進捗状況が順調)

b 目標達成が見込まれないが基準値を上回ることが見込まれる(関連する事業等の進捗状況が順調でない)

C 目標達成及び基準値を上回ることが見込まれない(関連する事業等の進捗状況が順調)

c 目標達成及び基準値を上回ることが見込まれない(関連する事業等の進捗状況が順調でない)

2. 目標達成見通しの理由

① 「中心市街地内の宿泊者数」について

「中心市街地内の宿泊者数」については、瀬戸内国際芸術祭の開催や、香川県立アリーナが開館した影響もあり、区域内に立地する宿泊施設の年間宿泊者数は９７０千人を記録し、目標達成した。令和８年度は、瀬戸内国際芸術祭の開催がないため、宿泊者数が減少する懸念もあるが、県立アリーナや周辺施設でコンサートなどの大規模イベントの開催により、広域からの来訪者を増やすことができるため、宿泊者数の増加は見込まれる。

② 「歩行者等通行量」について

「歩行者等通行量」については、中活区域内にある丸亀町商店街に「ポケモンセンターカガワ」がオープンし、商店街への集客効果を生み出しているが、中央商店街の歩行者数は１１３，４０３人となり、目標達成することができなかった。令和８年度は、商店街と活気あふれるサンポートエリアを結ぶ回遊性を高める施策やイベントの実施、さらには双方を繋ぐ交通アクセスの改善などにより、歩行者数の増加を目指す。

③ 「中心市街地の社会動態」について

「中心市街地の社会動態」については、市全体の人口が減少傾向にある中でも、増加傾向となっている。地価水準が高い中でも、分譲マンションの建設が続いており、令和７年度の中心市街地の社会動態は１４１人となった。令和８年度にもマンションが竣工予定であることから、今後も増加傾向は続くと見込まれる。

④ 「データ連携基盤を活用した事業数」について

「データ連携基盤を活用した事業数」については１件増加し基準値を上回ったが、目標達成には至らなかった。

「どこ駐車ナビ高松」が導入されたことで、サンポートエリアの渋滞対策として、中心市街地にある県営・市営・一部民間駐車場の空き状況を、スマートフォンなどで、リアルタイムに確認することができるようになった。令和８年度は、アプリのさらなる普及と活用を促進していくため、今後も事業増加は見込まれる。

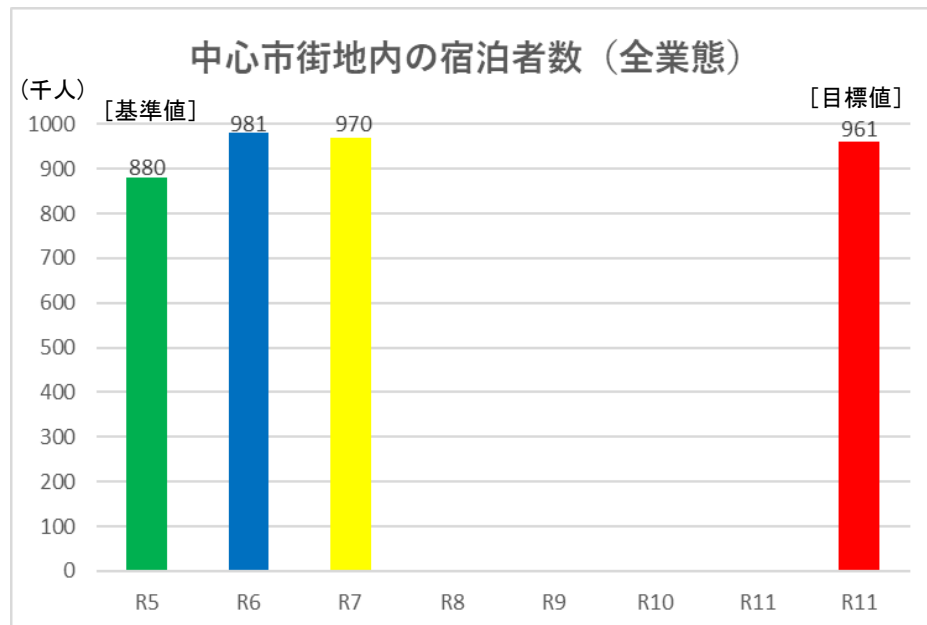
3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

前回フォローアップは実施していない。

4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

(1)「中心市街地内の宿泊客数」※目標設定の考え方基本計画 P40～P43参照

●調査結果と分析



出典：宿泊旅行統計調査(観光庁)

※調査方法：観光庁「宿泊旅行統計調査」の調査票情報を利用

※調査月：各年1月～12月

※調査主体：高松市

※調査対象：高松市の中心市街地に立地する宿泊施設

〈分析内容〉

中心市街地内の宿泊者数の増加に向けた各事業については、順調に事業が進んでいる。令和7年度の宿泊者数は、瀬戸内国際芸術祭やアリーナの開館等が影響で、970千人となり基準値・目標値を上回った。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

- ① 香川県立アリーナ管理事業(指定管理者香川穴吹アリーナコンソーシアム(代表企業穴吹エンタープライズ株式会社))(香川県)

事業実施期間	令和6年度～【実施中】
事業概要	中四国最大級の約1万人を収容可能なメインアリーナのほか、サブアリーナ、武道施設、会議室等を備えた県立アリーナを管理運営し、コンサートや、スポーツ大会等の開催により、交流人口の拡大やにぎわいづくりにつなげる。
国の支援措置名及び支援期	国の支援措置なし

間	
事業効果又は進捗状況	指定管理者制度を導入し、施設の管理運営を行っている。
事業の今後について	引き続き適切な管理運営を行っていく。

② ART SETOUCHI (瀬戸内国際芸術祭)(瀬戸内国際芸術祭実行委員会)

事業実施期間	平成22年度～【実施中】
事業概要	3年に一度の現代アートの祭典「瀬戸内国際芸術祭」のほか、芸術祭開催年以外でイベント等により瀬戸内海の魅力発信・誘客の活動を実施します。
国の支援措置名及び支援期間	国際文化芸術発信拠点形成事業(文部科学省)(平成30年度～)
事業効果又は進捗状況	瀬戸内国際芸術祭2025を開催し、約108万人の来場者があった。
事業の今後について	次回芸術祭開催に向け準備を進めるとともに、引き続き、これまでに蓄積されたアート資源を活用したアートイベント等を実施する。

③ 高松市美術館教育普及事業(高松市)

事業実施期間	昭和63年度～【実施中】
事業概要	商店街に隣接する施設で広く市民に向けた事業を実施することにより、相互的な利用者の増加が見込まれる。また、商店街が生み出した商業・経済的な賑わいとともに、文化施設である美術館が活発な活動を行うことにより、多面的な賑わいをもたらすことができる。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業(総務省)(令和7年度～令和12年度)
事業効果又は進捗状況	ワークショップ(美術講座)、「ふらっとアート」(子ども対象の造型プログラム)を実施し、美術を楽しむ機会を提供する場を設けた。
事業の今後について	引き続き、幅広い層が参加できる教育普及プログラムを企画・開催し、市民等が美術館に足を運び、美術に親しむ機会を提供する。

④ 高松市美術館展覧会事業(高松市)

事業実施期間	昭和63年度～【実施中】
事業概要	商店街に隣接する施設で広く市民に向けた事業を実施することにより、相互的な利用者の増加が見込まれる。また、商店街が生み出した商業・経済的な賑わいととも、文化施設である美術館が活発な活動を行うことにより、多面的な賑わいをもたらすことができる。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業(総務省)(令和7年度～令和12年度)
事業効果又は進捗状況	特別展、コレクション展を開催し、美術を楽しむ機会を提供する場を設けた。
事業の今後について	引き続き、幅広いジャンルの特別展やレベルの高いコレクション展を企画・開催し、市民等が美術館に足を運び、美術に親しむ機会を提供する。

⑤ 高松市美術館催し物事業(高松市)

事業実施期間	昭和63年度～【実施中】
事業概要	商店街に隣接する施設で広く市民に向けた事業を実施することにより、相互的な利用者の増加が見込まれる。また、商店街が生み出した商業・経済的な賑わいととも、文化施設である美術館が活発な活動を行うことにより、多面的な賑わいをもたらすことができる。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業(総務省)(令和7年度～令和12年度)
事業効果又は進捗状況	エントランス活用事業、友の会ふれあいコンサート、ワークショップや特別展を開催し、美術を楽しむ機会を提供する場を設けた。
事業の今後について	引き続き、エントランスホールを活用した事業を企画・開催し、市民等が美術館に足を運び、美術に親しむ機会を提供する。

⑥ サポートホール高松自主事業(公益財団法人 高松市文化芸術財団)

事業実施期間	平成17年度～【実施中】
事業概要	演劇・落語・影絵劇・クラシックコンサート等、幅広い実演芸術分野で質の高い作品を紹介し、多くの方に鑑賞機会を提供することにより、文化芸術の創造と振興普及を図ります。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業(総務省)(令和7年度～令和12年度)

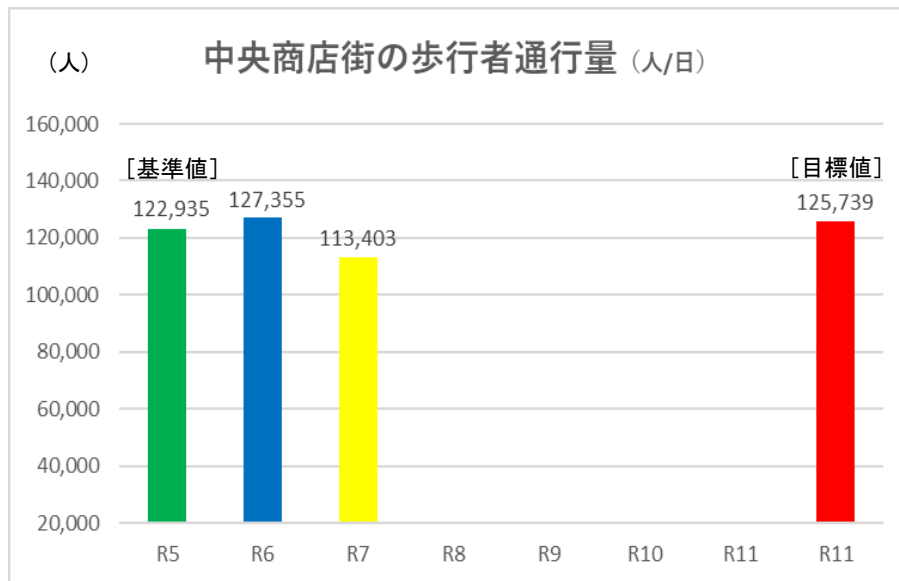
間	
事業効果又は進捗状況	演劇・落語・影絵劇・クラシックコンサート等、幅広い実演芸術分野で質の高い作品を紹介したり、予定公演を随時開催し、多くの方に鑑賞機会を提供した。
事業の今後について	より魅力的な事業の開催を目指すとともに、広報活動の工夫等、さらなる集客に向けた取り組みが必要と考えている。

●目標達成の見通し及び今後の対策

中心市街地の宿泊者数は、令和7年度に 970千人 を記録し、令和11年度に向けて設定している年間目標値 961千人 を前倒しで上回った。香川県立アリーナの稼働に加え、瀬戸内国際芸術祭2025の開催準備等に伴う来訪者増が滞在需要を押し上げたことが主な要因である。しかしながら、瀬戸内国際芸術祭は今年度限りの特需であり、来年度以降は反動減が生じる可能性が高い。現時点では目標達成に向けた進捗は良好であるものの、令和11年度の目標を安定的に達成するためには、平常時における宿泊需要の確保が課題となる。今後は、MICE 誘致や夜間・早朝のコンテンツ造成、商店街との連携による回遊促進など、通年で滞在価値を高める取組を強化し、宿泊者数の持続的な増加と中心市街地の活性化につなげていく。

(2)「中央商店街における歩行者等通行量」※目標設定の考え方基本計画 P44～47参照

●調査結果と分析



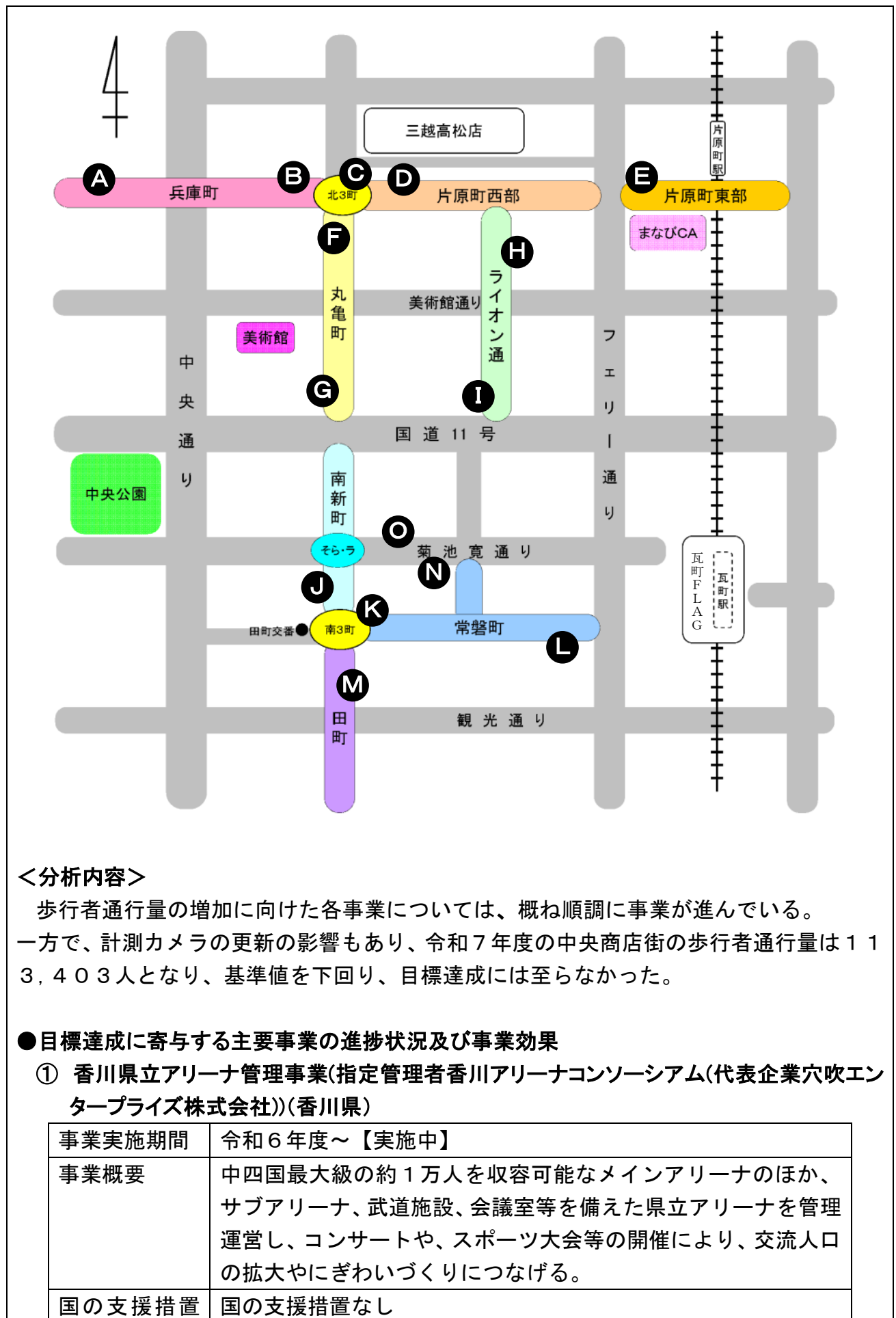
年	人／日
R5	122,935 (基準値)
R6	127,355
R7	113,403
R8	—
R9	—
R10	—
R11	125,739 (目標値)

※調査方法：中央商店街の15地点で自動計測（カメラ画像解析）を実施

※調査月：各年度4月1日～3月31日

※調査主体：高松市・高松中央商店街振興組合連合会

※調査対象：毎日（10時から19時まで）の中央商店街15地点の歩行者



＜分析内容＞

歩行者通行量の増加に向けた各事業については、概ね順調に事業が進んでいる。一方で、計測カメラの更新の影響もあり、令和7年度の中央商店街の歩行者通行量は113,403人となり、基準値を下回り、目標達成には至らなかった。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

① 香川県立アリーナ管理事業(指定管理者香川アリーナコンソーシアム(代表企業穴吹エンタープライズ株式会社))(香川県)

事業実施期間	令和6年度～【実施中】
事業概要	中四国最大級の約1万人を収容可能なメインアリーナのほか、サブアリーナ、武道施設、会議室等を備えた県立アリーナを管理運営し、コンサートや、スポーツ大会等の開催により、交流人口の拡大やにぎわいづくりにつなげる。
国の支援措置	国の支援措置なし

名及び支援期間	
事業効果又は進捗状況	指定管理者制度を導入し、施設の管理運営を行っている。
事業の今後について	引き続き適切な管理運営を行っていく。

② 高松市中央商店街空き店舗活用事業(高松市)

事業実施期間	平成24年度～【実施中】
事業概要	中央商店街の区域に所在する空き店舗に新たに出店する事業者に対し、必要な改修費等の一部を補助するもの。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業(総務省)(令和7年度～令和11年度)
事業効果又は進捗状況	改装費等の一部助成を継続して実施し、高松中央商店街の空き店舗の利用促進を図るとともに、高松中央商店街のにぎわいを創出した。
事業の今後について	引き続き、高松中央商店街の空き店舗を対象とする新規出店補助制度を周知啓発し、空き店舗の解消が進展するよう、継続して事業を実施する。

③ 高松丸亀町商店街情報発信事業(高松丸亀町商店街振興組合)

事業実施期間	平成25年度～【実施中】
事業概要	外国人観光客などの来訪者に対して商店街の店舗情報やイベント情報などローカルな情報に加え、中央商店街全体の情報や広域的な観光情報等を提供し、利用促進と回遊性の向上を図る。来街者の回遊促進に資するもので、中心市街地の活性化に必要。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果又は進捗状況	商店街イベントや、個店のセール情報などの必要な情報発信をweb サイトや商店街内のデジタルサイネージを使って発信している。
今後事業について	引き続き、商店街イベントや個店のセール情報などの必要な情報発信を行なっていく。

④ 南部3町商店街活性化拠点施設マチカドプラザ事業(株式会社高松南部3町商店街プロジェクト)

事業実施期間	平成30年度～【実施中】
事業概要	南部3町商店街の活性化拠点施設であるマチカドプラザにおいて、情報カウンターやサイネージによる商店街の情報発信、各種情報発信ツールによる各店舗情報の提供などを行い、隣接している集いの場として4町パティオの有効活用を検討するなど、利用促進と回遊性を高めるもの。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果又は進捗状況	商店街の企画・プロモーション企画が定着しており、その話題性と機動力を強みとして、外部企業・団体とのコラボも着実に伸びている。専門学校との年間を通じた連携に加え、新たに商店街を拠点とした中高生向けの探究活動との連携も試験的に取り組んだ。
今後の事業について	引き続き、商店街の企画・プロモーションを柱としつつ、長期的な視点での活性化へ向けて、新たな事業も含め、次につながる商店街の可能性を広げていくための取り組みを進める。

⑤ 高松市創業支援等事業(高松市)

事業実施期間	平成27年度～【実施中】
事業概要	高松商工会議所や金融機関等の地域の創業支援事業者と連携して創業者や創業希望者等を支援するもの。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果又は進捗状況	令和2年2月に創業支援事業者と共同で開設した相談窓口である「たかまつ創業サポートセンター」を中心に、連携して創業者や創業希望者等を支援した。
今後の事業について	引き続き、地域の創業支援事業者と連携して、創業者や創業希望者等への支援を行い、創業相談件数の増加を図る。

⑥ 中央公園再整備事業(高松市)

事業実施期間	令和5年度～令和8年度【実施中】
事業概要	公園全体の再整備に併せて、周辺道路を含む公園エリア全体のユニバーサルデザイン化や Park-PFI 制度を活用した民間施設(飲食店)の設置により、公園の魅力と価値を向上させるとも

	に、民間が主体となった管理運営体制を構築し、周辺商店街や市民団体等との連携により地域全体の活性化を目指すもの。
国の支援措置名及び支援期間	社会課題対応型都市公園機能向上促進事業(国土交通省)(令和5年度～令和8年度)
事業効果又は進捗状況	今年度に工事契約を行い、事業着手している。
今後の事業について	R8年度はPark-PFI施設がR8年9月頃にオープン予定のため、周辺を中心に整備を行い、関係機関等とも調整を図りながらR9年度の整備完了を目指す。

⑦ レンタサイクル事業(高松市)

事業実施期間	平成13年度～【実施中】
事業概要	中心市街地の7か所に設置しているレンタサイクルポートで市民等に自転車を貸し出し、まちなかの回遊の手段として利用に供するものです。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業(総務省)(令和7年度～令和12年度)
事業効果又は進捗状況	市内7箇所に設置しているレンタサイクルポートにおいて、レンタサイクル事業を実施している。民間事業者と連携し、民営化の可能性を探る実証事業を行っている。
今後の事業について	実証事業の結果を踏まえて、収支改善やサービス水準の向上につながる事業の見直しに向けて、民間事業者との調整や、市管理のレンタサイクルポートの活用方策の検討を行う。

●目標達成の見通し及び今後の対策

中央商店街の歩行者数は、主要事業は概ね順調に進んでいるものの、基準値を下回り、目標達成には至らなかった。

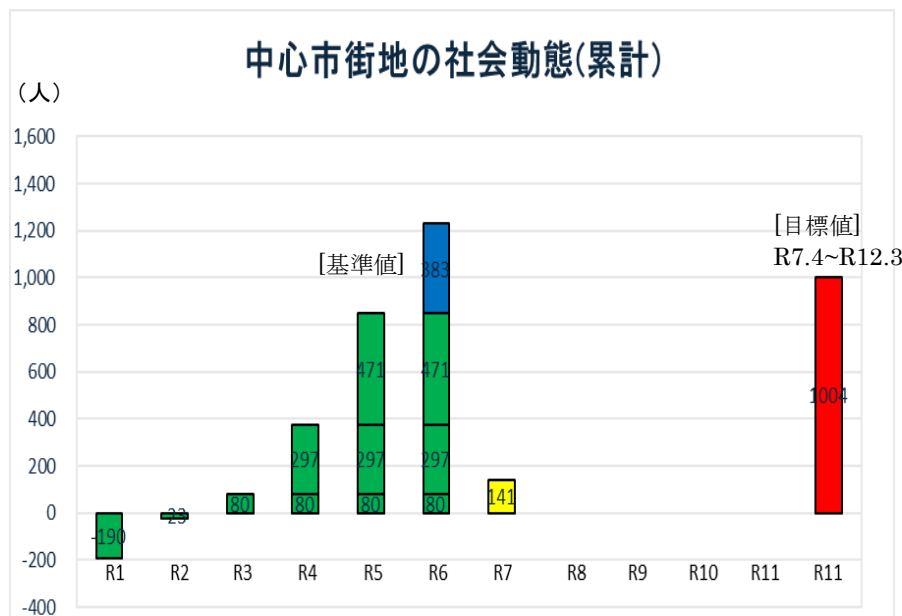
その要因として、令和7年度に計測カメラを更新した際、一定期間、旧カメラと新カメラを併設して比較した結果、旧カメラは実際の数値より多くカウントする傾向が確認された。このため、同一地点での計測であるにもかかわらず、新カメラによる数値は相対的に低く算出され、結果として目標値を下回ることとなった。

また、令和7年度は、瀬戸内国際芸術祭の開催やアリーナの稼働状況、ポケモンセンターのオープン等の状況から見ても、来街者数そのものは増加していることが想定されるため、数値上の目標達成は難しいと考えられる。

この状況を踏まえ、令和8年度は、主要事業に加え、商店街と活気あるサンポートエリアを結ぶ回遊性の向上に資する施策やイベントの実施、さらに両エリア間の交通アクセスの改善に取り組み、更なる歩行者数の増加を目指す。

(3)「中心市街地の社会動態」※目標設定の考え方基本計画 P48～P50参照

●調査結果の推移



年	人 (累計)
R5	960 (R1. 4～R6. 3) (基準値)
R6	1231
R7	141
R8	—
R9	—
R10	—
R11	1004 (R7. 4～R12. 3) (目標値)

※調査方法：中心市街地内における住民基本台帳登録人口

※調査月：4月1日時点調査、同月取りまとめ

R1年度は7月1日～R2年4月1日

※調査主体：高松市

※調査対象：中心市街地内の居住者

<分析内容>

中心市街地の社会動態については、各事業は概ね順調に進んでいる。

令和7年度は、中心市街地全体で転入1251人、転出1207人、社会動態は141人となり、民間のマンション建設等の影響で、社会動態増加傾向となっている。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

① 移住・定住促進事業(高松市)

事業実施期間	平成24年度～【実施中】
事業概要	「生活のしやすさ」「仕事のしやすさ」「子育てのしやすさ」という本市の3つの強みを、移住希望者に効果的にPRし、幅広い移住サポートに取り組むことにより、移住者の増加を図るもの。
国の支援措置名及び支援期間	デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ（移住・起業・就業型））（令和元年度～）
事業効果又は進捗状況	移住促進サイト「高松市移住ナビ」、中心市街地の都市機能等をアピールした移住促進パンフレットによる情報発信や、移住支援補助金の支給、Web会議システムを活用したきめ細かな相談対

	応、中心市街地施設を活用した先輩移住者との交流会、主に中心市街地にあるゲストハウスと連携した、お試し移住とゲストハウスによるまち案内ツアーの実施により、街なか居住を推進している。
事業の今後について	引き続き、移住促進 PR ツールやお試し移住補助金等を活用しながら、街なか居住を推進するとともに、県外の大学等に進学した学生のリターン就職や本市への定着を図るための経済支援などを通して、若い世代が本市での就業や居住をしやすい環境づくりに取り組む。

② 逃げ遅れゼロ事業(高松市)

事業実施期間	令和５年度～【実施中】
事業概要	人や建物の密集により防災機能に対する要求が高くなる中心市街地において、デジタル技術を活用した効率的な防災機能の向上に寄与する仕組みを実装することで、中心市街地のアセットの価値を向上し、賑わい創出に向けた好循環を創出する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果又は進捗状況	リアルタイムで発災情報や対応情報を入力可視化できる水防アプリケーションを試行しており、今後起こりうる激甚災害時に想定される膨大な発災情報に対して効率的に対応できる環境を整備した。
事業の今後について	水防本部業務において、水防アプリケーションの本格運用を令和８年度から予定している。また、避難所開設状況管理機能など、アプリケーションの機能追加も実施予定である。

③ フラット35活用事業（高松市）

事業実施期間	平成３１年度～【実施中】
事業概要	コンパクトシティ形成のための居住誘導施策として、住宅金融支援機構と協定を結び、財政支援を行うもの。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果又は進捗状況	コンパクトシティ形成のための居住誘導施策として、住宅金融支援機構と協定を結び、財政支援を行うもので、受付４件、うち支払いまで完了しているもの１件だった。

事業の今後について	新築住宅の価格高騰などに伴う中古住宅の需要の高まり及び空き家対策の観点から、事業内容を拡充し、中古住宅の取得を対象に加える。
-----------	--

●目標達成の見通し及び今後の対策

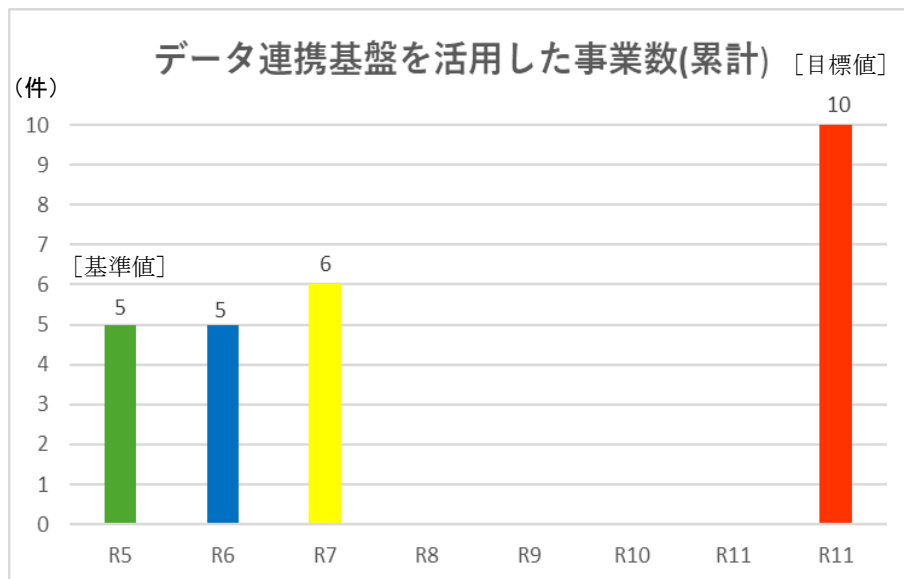
「中心市街地の社会動態」については、各事業は概ね順調に進んでいる。

市全体の人口が減少傾向にある中においても、マンションの建設などを要因として、中心市街地の社会動態は増加傾向にある。

今後、社会動態を着実に増加させていくためには、中心市街地における居住環境の向上や住宅供給の継続に加え、現在実施しているフラット35活用事業の周知啓発などの主要事業に積極的に取り組み、中心市街地の人口増加につなげていく必要がある。

(4)「データ連携基盤を活用した事業数」※目標設定の考え方基本計画 P51～P52参照

●調査結果の推移



年	件（累計）
R5	5 （基準値）
R6	5
R7	6
R8	—
R9	—
R10	—
R11	10 （目標値）

＜分析内容＞

データ連携基盤を活用した事業数の増加に向けた各事業は、概ね順調に進んでいる。
データ連携基盤を活用した事業数については1件増加した。目標達成には至らなかったが基準値を上回ることができた。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

① サンポート FACT プロジェクト(エリアマネジメント)(サンポート高松地区エリアプラットフォーム)

事業実施期間	令和3年度～【実施中】
事業概要	民間が主体となったまちづくりを積極的に行えるように、新たな合意形成体（エリアプラットフォーム）によるエリアマネジメントを導入予定。「サンポート FACT プロジェクト」では、公共空間の開放やイベント 情報の一元発信など、社会実験を実施している。
国の支援措置名及び支援期間	官民連携まちなか再生推進事業(国土交通省)(令和3年度～)
事業効果又は進捗状況	「サンポート FACT プロジェクト」では、継続して公共空間の開放やイベント情報の発信など、社会実験を実施した。また、民間主体のエリアマネジメント団体の組成を目標としているため、定期的にワーキングや勉強会を行っている。
事業の今後について	引き続き、社会実験を継続して行うとともに、ワーキングや勉強会を開催し、エリアマネジメント団体の組成を目標に活動する。

●目標達成の見通し及び今後の対策

データ連携基盤を活用した事業数は、サンポートエリアの渋滞対策として、中心市街地の県営・市営および一部民間駐車場の空き状況をスマートフォン等でリアルタイムに確認できる「どこ駐車ナビ」を開発・導入したことにより、1件増加した。目標達成には至らなかったものの、基準値を上回る結果となった。

今後においても、中心市街地活性化に資する取組の相乗効果を生むアプリ開発を促進することで、事業数の達成が見込まれる。